

荊田町立荊田中学校 令和5年度 部活動ガイドライン

1 部活動の意義と目的

部活動は、学校教育活動の一環として、興味と関心を持つ同好の生徒が、教職員等の指導のもと、自主的・自発的に行うものであり、より高い水準の技術や記録に挑戦したり、中学校体育連盟主催及び中学校文化連盟主催の大会（以下、「連盟主催大会」という。）等に参加し、活動を実践する中で、楽しさや喜びを味わい、学校生活に豊かさをもたらす意義を有している。また、生徒の自主性を重んじて行われることで、生徒が互いに協力し合って友情を深めるなど、好ましい人間関係の形成に資するとともに、体力の向上や健康の保持増進を図り、生涯にわたってスポーツや文化等に親しむ態度や豊かな人間性を育む基礎となるものである。なお、体力や技能の向上を目指すことのみに偏ることなく、適切な指導や支援によって、仲間と協力し、切磋琢磨し、生徒一人ひとりが充実感や達成感を味わうことができるようにすることを目的とする。

2 部活動の目標

- 健全な心身の発達を促し、豊かな人間性を養う。
- 自主性を育てるとともに、集団生活において協調性を養う。

3 部活動の適切な運営のための体制整備

- 学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育目標が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との連携を図る。
- 学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等との連携を図る。
- 部活動の意義と目的の達成と、生徒、保護者及び地域の理解や協力体制を整えるため、スポーツ庁及び文化庁が示す、部活動のあり方に関する総合的なガイドラインや福岡県及び荊田町教育委員会が策定する指針等に則る。
- 各部の指導は顧問を中心に、全職員が協力して行う。

4 部活動における休養日と活動時間について

（１）適切な休養日及び活動時間の設定

部活動における休養日及び活動時間については、原則として、以下を基準とする。

☆部活動における休養日及び活動時間の基準☆

- 学期中は、週当たり２日以上休養日を設ける。平日は少なくとも１日、週末（土曜日及び日曜日）は少なくとも１日以上を休養日とする。ただし、連盟主催大会の２週間前の週休日における両日活動については、生徒の負担を考慮した上で活動を認める。その他の期間に両日実施する場合には事前に校長の承認を得た上で、休養日を他の日に振り替える。
- 長期休業中の休養日の設定は、学期中に準じた扱いを行う。また、生徒が十分な休養を取ることができるとともに、部活動以外にも多様な活動を行うことができるよう、ある程度長期の休養期間（オフシーズン）を設ける。なお、学校閉庁日には、特別な理由の無い限り部活動を行わない。

- 1日の活動時間は、平日では2時間程度、学校の休業日（学期中の週末を含む）は3時間程度とし、できるだけ短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行う。（練習試合や遠征などで半日を超える場合は、事前に校長の承認を得て、保護者・生徒の理解を得た上で実施する。）

なお、部活動を行う生徒の心身の状況はそれぞれ違うことから、前述の基準のみならず、個別に休養日や活動時間を設定するなどの配慮をする。また、休養日及び活動時間等の設定については、定期試験前後の一定期間の部活動休養日（原則3日間）を設けたり、週間、月間、学期単位等での活動頻度・時間を設定するなど弾力的に定めることができるものであること。

夏期 19：00 **冬期** 18：00 ※天候や活動場所、活動環境等の都合上、この限りではない

(2) 参加する大会や練習試合等の見直し

連盟主催大会以外の大会や練習試合等について、以下の点に配慮し、見直しを行う。

- 大会の教育的意義、生徒や部活動顧問、保護者の負担等が過度とにならないことを考慮して、参加する大会等を精査する。
- シーズン期とそれ以外の時期の活動が、メリハリのついた活動となるよう、参加する大会等を精選し、年間の活動計画に参加する大会等を位置づける。

5 指導にあたって

- 生徒の心身の健康管理、事故防止及び体罰・ハラスメントの根絶を徹底する。
- 勝利のみを目指すのではなく、連帯感、責任感等を育成することに努める。また、異年齢集団における上級生、下級生等の適切な人間関係の在り方についても指導する。
- 独善的な指導ではなく生徒との意見交換等を通じて生徒の主体性を尊重しつつ、目標や活動内容を検討する。
- 生徒のよさを見つけて伸ばす肯定的な場面と注意を促す指導の場面に応じて適切に行う。なお、注意指導の後にはフォローアップに留意する。
- 生徒の発達の段階、体力、技能の習熟度に応じた練習や日々の健康観察に基づいた無理のない練習を行う。
- 運動部活動の指導にあたっては、競技団体等が作成する運動部活動指導手引きを参考に、合理的でかつ効率的・効果的な指導に努める。

6 開かれた学校部活動

- ア 部活動指導員及び外部指導者の活用
- イ 体験入部期間等の設定
- ウ 地域クラブ活動等との連携
- エ 他校との連携（拠点校方式）